

教育課程研究指定校事業実施計画書（平成31年度）
 ー 研究課題 1 高等学校 ー

都道府県・指定都市番号	40	都道府県・指定都市名	福岡県
-------------	----	------------	-----

公立・私立・国立（○で囲む）

1 研究指定校の概要

ふりがな 学校名	ふくおかけんりつすいさんこうとうがっこう 福岡県立水産高等学校				ふりがな 校長氏名	たにがわ ひろふみ 谷川 浩史
所在地	〒811-3304 福岡県福津市津屋崎 4-46-14 電話 0940-52-0158 FAX 0940-52-5023 e-mail suisan-h@pref.fukuoka.lg.jp					
設置する 課程 (H31.4.1 見込)	1 年次 水産科 2, 3 年次 海洋科 (航海・機関・マリン 技術), 食品流通科, アクアライフ科				(H31.4.1 見込。臨時的任用の者は常勤の者のみ含む) 教員数 50 名	
生徒数 (H31.4.1 見込)				[調査研究にかかわる教科等の教員数] 25 名		
学科名	1 年	2 年	3 年	4 年	計	
水産に関する学科	161				161	
海洋科(航海・機関)		39	37	20	96	
海洋科(機関・マリン)		36	20		56	
食品流通科		30	30		60	
アクアライフ科		39	36		75	
合計	161	144	123	20	448	
特記事項						

2 研究主題等

教科等名	水産	教科課題番号等	1
学校における研究 主題	教科「水産」において、水産・海洋の諸課題を科学的に考察し解決するために必要とされる思考力・判断力・表現力等を育成するための主体的・対話的で深い学びを通じた学習指導及び評価方法の工夫改善に関する実践研究		

3 平成30年度の成果と課題

<ul style="list-style-type: none"> ○生徒意識調査により生徒の興味・関心を持っている分野等を把握することができた。 ○「水産海洋基礎」【基礎実習】において、指導方法改善や評価規準等について共通認識ができた。 ○「評価シート」の作成により、実習の評価を適切に行うことができた。 ○「生徒自己評価シート」では、指導と評価の一体化を図ることができた。 ○指導方法・評価規準の研究により、職員の理解を深めることができた。 ●「評価シート」、「生徒自己評価シート」については、「水産海洋基礎」に限定せず、他の科目でも活用できるように研究開発を進める。 ●生徒による授業評価を行うことにより教員の自己満足の授業改善にならないように、入学直後と学年末の生徒授業アンケートを比較することで、研究成果の検証を行う。 ●生徒の授業アンケート結果を分析し、授業改善と評価シート等の改善を図る。 ●作成した評価シート及び授業実践について外部機関から指導・助言を受け、評価シートの完成と「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る。 ●より適切な評定のあり方に向けて、引き続き研究協議を継続するとともに、外部機関との連携協定締結を図る。 ●福岡県が推進する「新たな学びプロジェクト」と連携して普及活動を行う。
--

4 平成31年度の研究計画

(1) 本年度の研究の重点等

①水産の他の専門科目についての観点別評価に基づいた評価方法を研究・開発し、実践する。
②アクティブ・ラーニングの視点に基づいた授業づくりに関する研修を継続して実施する。
③2年次の「総合実習」で実施する企業見学研修に向けて、「水産海洋基礎」から継続した、指導計画と、記入用紙の作成を研究する。
④教員間の連携を密にし、授業改善の方法、評価の在り方、生徒の指導について共有化を図る。

(2) 研究計画

実施時期	研究内容, 研究方法, 成果の公開等	期待される成果等
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容の確認 ・研究計画書の作成 ・指導方法及び評価方法の見直し ・生徒授業アンケート ・職員研修会 ・学習指導案の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の課題を踏まえ、2年目の研究内容について職員の共通認識を図ることができる。 ・指導方法及び評価方法の見直しにより、研究内容の深化を図ることができる。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・評価シート等の改善 ・公開授業の実施 ・生徒授業アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業を実施して様々な指導・助言を受けることで、研究成果の検証を行うことができる。 ・生徒の授業アンケートを実施することで、開発した評価シート等の更なる改善を図ることができる。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・外部連携機関からの指導・助言 ・研究のまとめ ・研究紀要の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部連携機関から指導・助言を受けることで、研究の成果と課題を明確にすることができる。 ・研究紀要を作成するとともに、ホームページに評価関係資料とともに掲載することで、全国の水産高校に成果を普及できる。

5 研究のまとめの見通し

<p>○研究のまとめと方向性</p> <p>単元ごとの評価規準を明確に設定し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進めることで、専門的な知識・技能の習得だけでなく、思考力・判断力・表現力等の育成や、学びに向かう力・人間性等の涵養を図ることができる。</p> <p>○研究成果の検証方法</p> <p>①「水産海洋基礎」の【基礎実習】の観点別評価規準について校内教育課程研究委員会で検討し、評価規準の整理と学科間の統一を図る。</p> <p>②外部連携機関（北九州市立大学）から指導・助言を受けながら、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進する。</p> <p>③開発した「評価シート」を用いて授業実践を行い、実践した教員に「評価シート」についてのアンケートを実施して、評価項目や内容について検討する。</p> <p>④校内研究発表会の実施後、研究協議会を行い、授業評価を実施する。</p> <p>⑤研究前後に生徒の授業アンケートを実施し、生徒一人一人の実践力の育成について検証する。</p>
--

6 研究実績

特記なし
